

学校自己評価システム取組状況調査報告書

平成28年度

県立学校評価委員会

学校名	埼玉県立小鹿野高等学校		Bグループ
項目	調査の観点	取組状況に関する所見	
目指す学校像	目指す学校像は、学校の現状、課題等を踏まえて設定されているか。	学校として目指す方向が明確に示されている学校像である。学校の置かれた状況や課題を的確に把握した上で、「地域に愛され信頼される学校づくり」など学校に寄せられる期待に応える適切かつ明瞭なものである。	
重点目標	学校が抱える課題の解決に向け、児童生徒の実態など学校の状況を踏まえて、目標の重点化が図られているか。	目指す学校像に掲げられた「学力と人間力が身についた生徒づくり」などに向けて学校の取り組むべき方向が四つの柱として設定されている。前年度と比べて整理され、生徒の実態など学校の状況を踏まえた適切な目標となっている。	
重点目標達成への取組	重点目標の達成に向けた組織体制が整備され、適切に機能しているか。	重点目標達成に向けた取組が、「小鹿野高校だより」などを通じて生徒や保護者、地域に情報提供されている。評価項目が、年度達成目標としての重点化が不十分なので、分掌・学年等の連携を図り、よく議論しながら、明確かつ具体的な目標を設定するように工夫していただきたい。	
	方策は適切に策定され、効果的に実施されているか。	方策と評価指標を設定するに当たり、職員会議等で教職員間の共通理解が図られている。方策がやや網羅的なものとなっているので、評価項目の達成を目指す、より具体的なものにして計画的に実施することが望まれる。	
	校長の的確なリーダーシップの下、教職員が共通理解を深めながら組織的に取り組んでいるか。	校長は組織力を高め、学校自己評価システムを活用した学校経営に取り組もうとしている。教職員一人一人を的確に生かし、組織力を高めるようとする校長の意欲が感じられた。更に共通理解を深め、目標の達成を目指すことが期待される。	
	学校関係者評価等を踏まえて、達成状況や課題を検証し、取組の改善・更新が行われているか。	未来を拓く学校づくり推進事業に取り組む中で、魅力ある学校づくりを目指し、学校関係者など地域の意見を積極的に収集している。学校関係者の意見やアンケート結果等を詳細に分析して有効活用し、次年度のより具体的な取組につなげ、スパイラルアップを図るようにしていただきたい。	
特記事項			